

新型コロナウイルス感染症流行下の 日本人旅行者の動向（その5）

～JTBF旅行意識調査結果より～

2020年8月14日

公益財団法人日本交通公社
観光地域研究部 市場調査チーム

調査概要

調査名 : JTBF旅行意識調査
調査対象 : 全国18～79歳の男女（調査会社のパネルより抽出*）
調査方法 : 郵送自記式調査*
調査期間 : 2020年5月20日～6月5日
標本の大きさ : 1,472人

回答者属性 :

年齢 (歳)	男性								女性								合計
	18-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	計	18-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	計	
標本の 大きさ (人)	34	91	113	150	120	137	100	745	22	78	111	127	116	149	124	727	1,472
構成比 (%)	2.3	6.2	7.7	10.2	8.2	9.3	6.8	50.6	1.5	5.3	7.5	8.6	7.9	10.1	8.4	49.4	100.0

*国勢調査時の人口に基づき、住宅地図データベースから世帯を抽出し、個人を割り当てた。これにより、地域、性年代の偏りなく調査対象を抽出した。
その上で郵送により調査票を送付し、回答者自身が記入を行う自記式により回答を得た。

調査結果

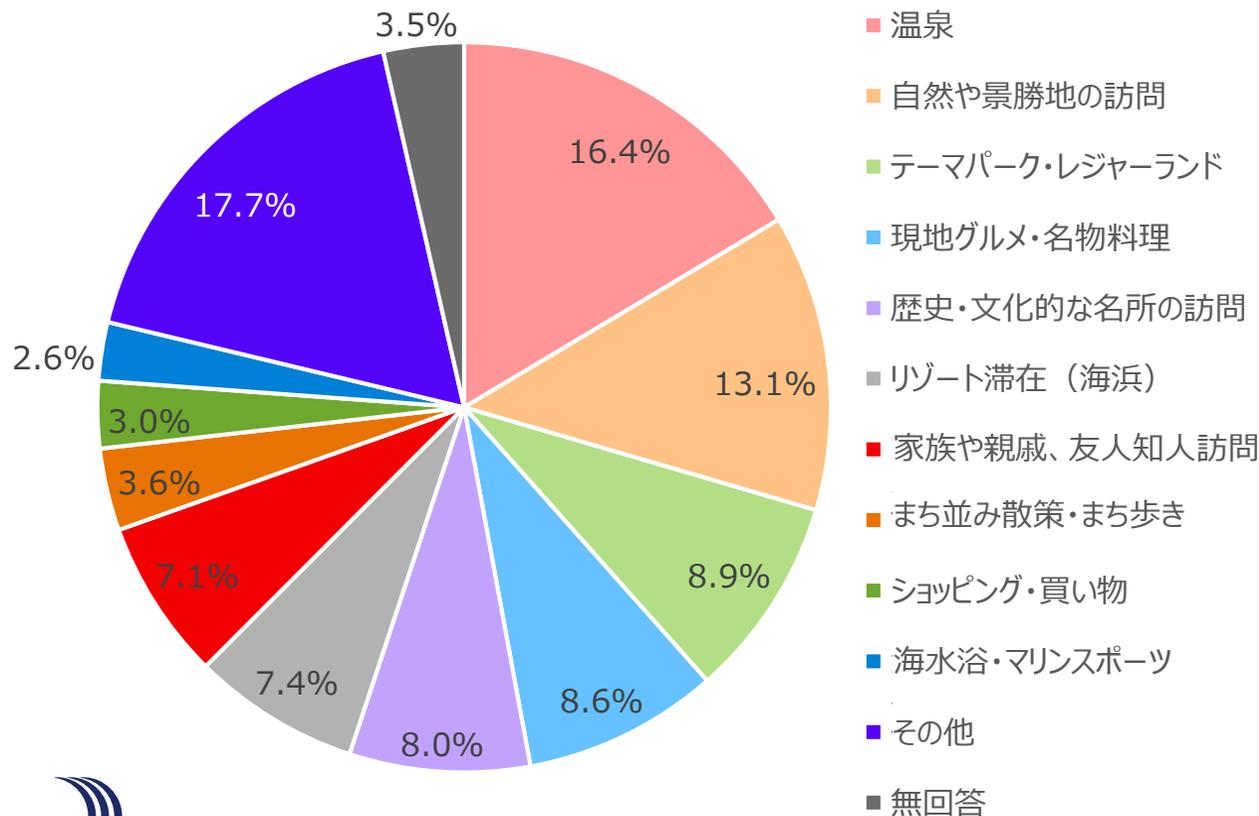
1. 新型コロナウイルス収束後、旅行先で行いたい活動と旅行先	…	p.4
(1) 活動	…	p.4
(2) 旅行先	…	p.5
2. 行政の要請に対する意識	…	p.6
3. 新型コロナウイルスの影響があった観光地への支援	…	p.8
(1) 支援意向	…	p.8
(2) 支援経験	…	p.10
(3) 支援内容	…	p.11
4. 旅行意向に影響を与える要因	…	p.12
5. 旅行先の選択・旅行行動の変化に影響を与える要因	…	p.14

旅行先で行いたい活動 「温泉」「自然や景勝地の訪問」が人気

- 新型コロナウイルス収束後、旅行先で行いたい活動を尋ねたところ、「温泉」16.4%、「自然や景勝地の訪問」13.1%が1割を超えました。次いで、「テーマパーク・レジャーランド」「現地グルメ・名物料理」「歴史・文化的な名所の訪問」の順となりました。

Q. 新型コロナウイルスの流行が収束したら旅行先で最も行いたいと思う活動を選んでください。

(新型コロナウイルス収束後に旅行に行きたいと回答した人のみ)【単一回答】



※「その他」に含まれる項目は下表の通り。

都市観光・都会見物	2.4%
観光施設・動物園・水族館	2.1%
世界遺産訪問	1.9%
芸術鑑賞（観劇、コンサート・ライブなど）	1.8%
スポーツ観戦	1.1%
ドライブ	1.0%
祭り・イベント	0.9%
リゾート滞在（高原）	0.9%
美術館・博物館	0.9%
その他	0.9%
アウトドア体験（カヌー、乗馬体験、気球など）	0.8%
登山・トレッキング	0.8%
ゴルフ	0.6%
スキー・スノーボード	0.4%
サイクリング	0.4%
季節の花見	0.3%
果物狩り・農林漁業体験	0.2%
野生動物観察（クジラ、鳥など）	0.2%
産業観光（工場見学、モノづくりの現場見学など）	0.2%
生活文化体験（陶芸体験、そば打ち体験など）	0.1%
写真・写生	0.1%
マラソン・ジョギング	-
スパ・エステ	-

行ってみたい旅行先

各活動の代表的な観光地を含む都道府県がランクイン

- 新型コロナウイルス収束後に行いたい活動別に訪れたい場所を尋ねると、「温泉」では大分県、「自然や景勝地の訪問」では北海道、「テーマパーク・レジャーランド」では千葉県がそれぞれ第1位となるなど、各活動において代表的な観光地を有する都道府県が選ばれました。

Q. 新型コロナウイルス収束後、旅行先で最も行いたい活動のために、訪れたい場所はどこですか。

(新型コロナウイルス収束後に旅行に行きたいと回答した人のみ)【自由記述】

温泉 (n=171)		
1位	大分県	18.1%
2位	群馬県	10.5%
3位	静岡県	9.9%

歴史・文化的な名所の訪問 (n=83)		
1位	京都府	31.3%
2位	広島県、三重県	4.8%

まち並み散策・まち歩き (n=38)		
1位	石川県	10.5%
2位	沖縄県	5.3%
3位	京都府、英国など多数	2.6%

自然や景勝地の訪問 (n=137)		
1位	北海道	24.1%
2位	沖縄県	16.8%
3位	静岡県	3.6%

リゾート滞在(海浜) (n=77)		
1位	沖縄県	40.3%
2位	ハワイ	32.5%
3位	静岡県	5.2%

ショッピング・買い物 (n=31)		
1位	大韓民国	25.8%
2位	東京都、ハワイ	9.7%

テーマパーク・レジャーランド (n=93)		
1位	千葉県	59.1%
2位	大阪府	20.4%
3位	東京都	4.3%

家族や親戚、友人知人訪問 (n=74)		
1位	東京都	9.5%
2位	神奈川県、広島県、北海道	6.8%

海水浴・マリンスポーツ (n=27)		
1位	沖縄県	55.6%
2位	ハワイ、パラオ共和国	7.4%

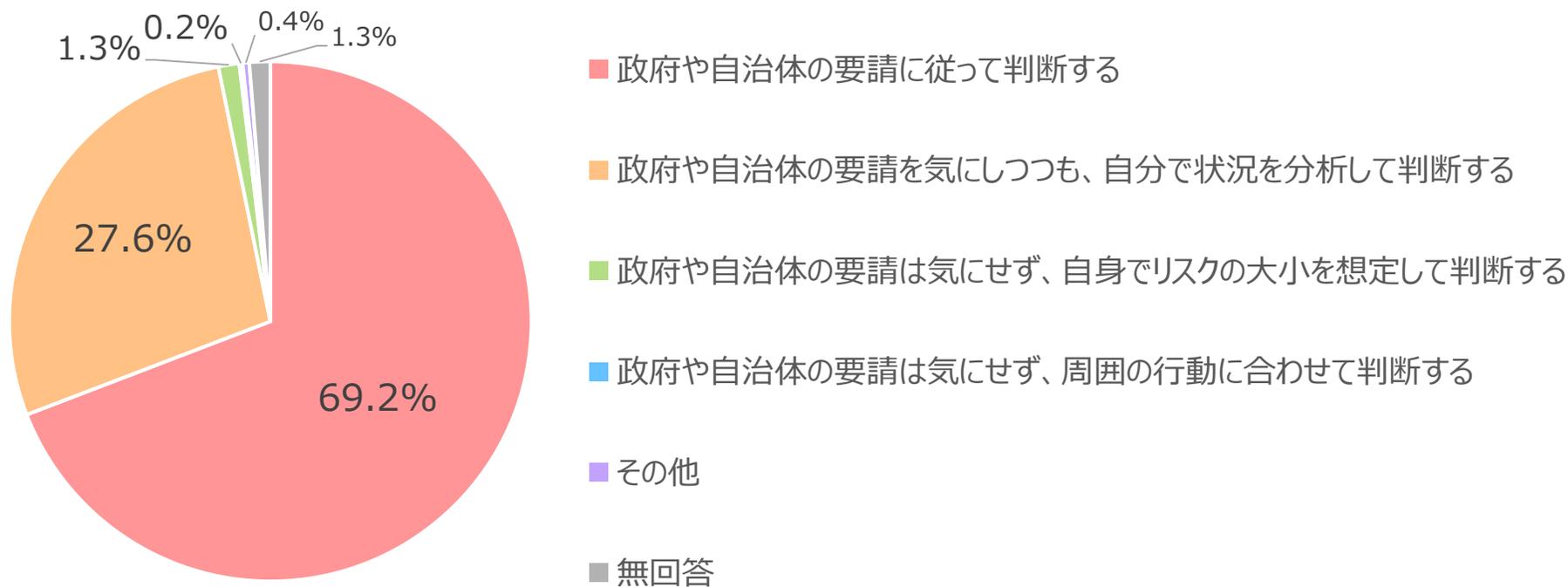
現地グルメ・名物料理 (n=90)		
1位	北海道	34.4%
2位	福岡県、台湾	5.6%

政府や自治体の要請 9割以上が意識、約7割が従う

- 旅行の実施を検討する際に政府や自治体の要請を意識する度合いを尋ねると、「要請に従って判断する」が69.2%、「要請を気にしつつも、自分で状況を分析して判断する」が27.6%となり、合わせて96.8%が行政の要請を意識することが分かりました。
- 一方で、「要請を気にしない」は合わせて1.5%にとどまりました。

Q. 旅行に行くかやめるかを判断するときに、政府や自治体の要請*をどの程度意識しますか。【単一回答】

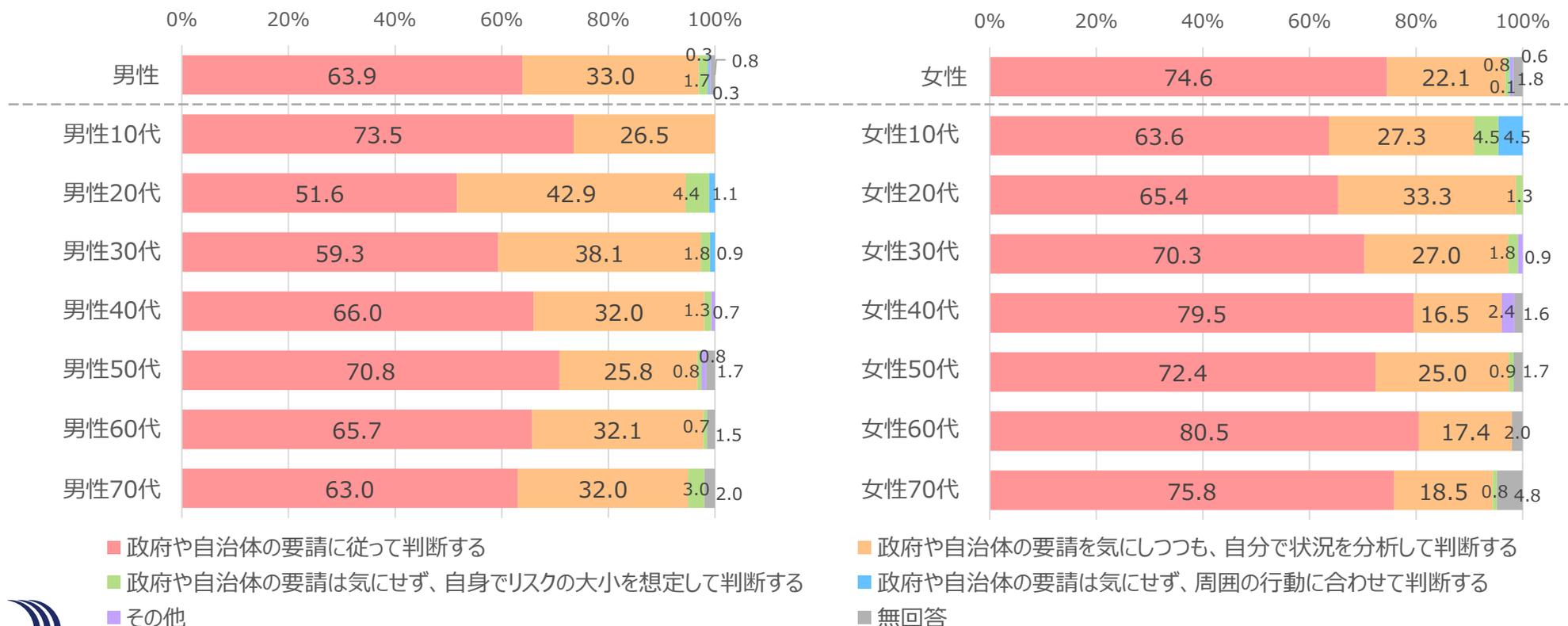
* 外出自粛、来訪自粛等を指す。



政府や自治体の要請 男性は自らの分析も判断材料に加える

- 行政の要請に対する意識を性別にみると、「要請に従って判断する」が男性は63.9%、女性は74.6%、「要請を気にしつつも、自分で状況を分析して判断する」が男性は33.0%、女性は22.1%となり、男性の方が要請だけでなく自らの分析を判断材料とする傾向が見られました。
- 「要請を気にしつつも、自分で状況を分析して判断する」は、男女ともに20代で最も高くなりました。

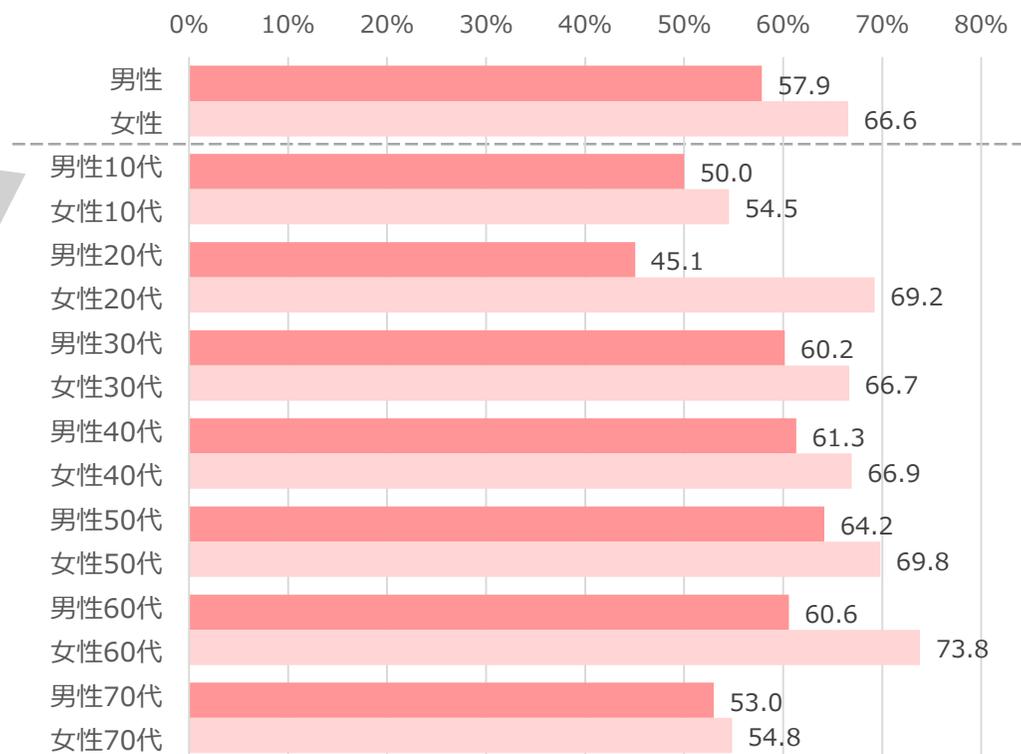
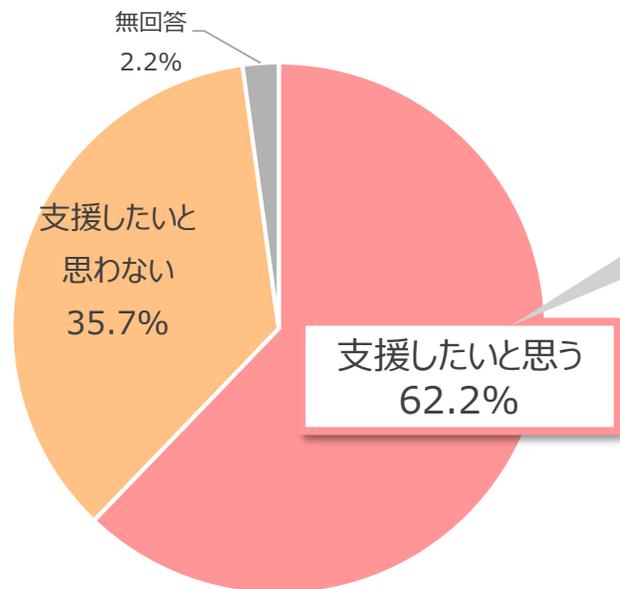
性年代別にみる行政の要請に対する意識



新型コロナの影響があった観光地に対して6割以上が支援したいと回答

- 新型コロナによる影響を受けている観光地を支援したいと思うかを尋ねると、「支援したいと思う」が62.2%、「支援したいと思わない」が35.7%と、6割以上が支援に前向きでした。
- 性年代別で見ると、「支援したいと思う」の割合は男性で57.9%、女性で66.6%となり、女性の方が支援意向が高くなっています。また、支援意向が最も低かったのは20代男性であり、20代女性と比べると20%以上の差がありました。

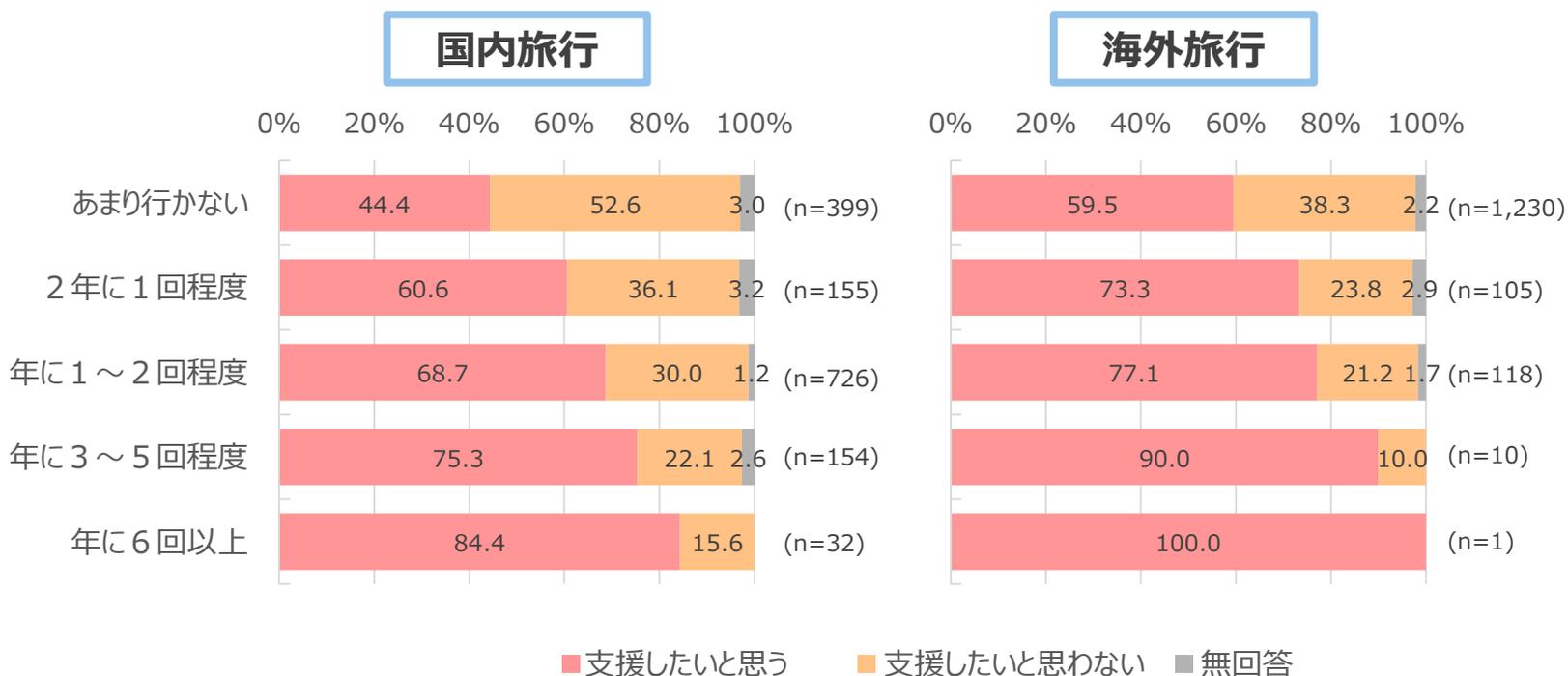
Q. 新型コロナウイルスの流行によって、観光客数が大幅に減少し経済的な影響を受けている観光地に対して、何か支援を行いたいと思いますか。【単一回答】



観光地への支援意向 普段の旅行頻度に従い高まる

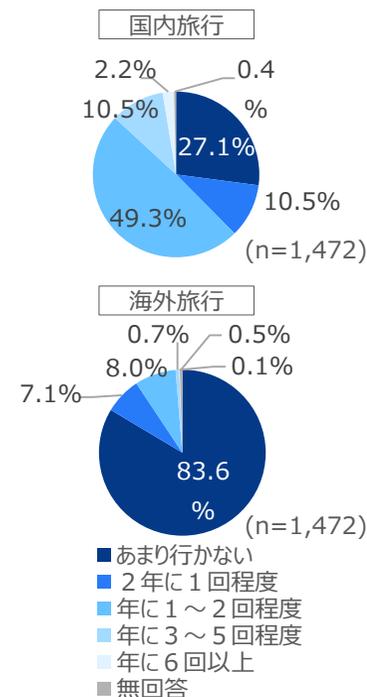
- 新型コロナによる影響を受けている観光地に対する支援意向を普段の旅行頻度別にみると、国内旅行・海外旅行ともに普段の旅行頻度が高い層ほど支援意向も高くなりました。
- 国内旅行についてみると、“あまり行かない”層の支援意向は4割強に対し、“年に3回以上”の層では7～9割となっています。

普段の旅行頻度別にみる観光地への支援意向*



*普段の旅行頻度構成比

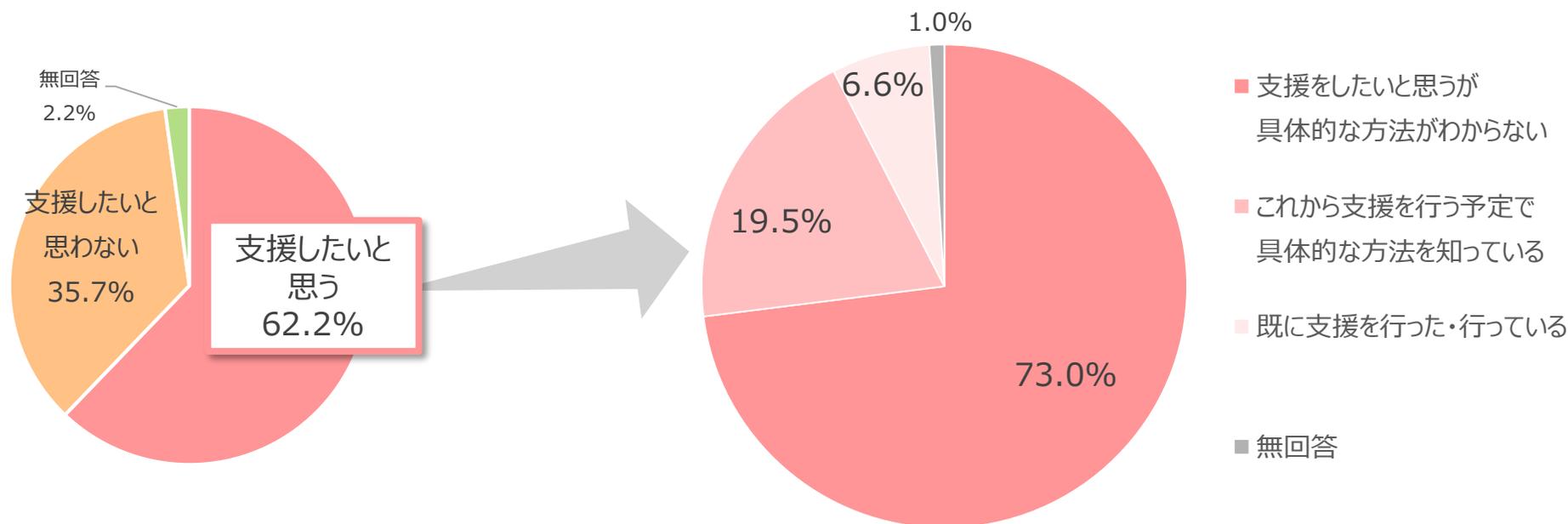
普段の旅行頻度が「年に6回以上」の人の割合は国内旅行で2.2%、海外旅行で0.5%と、他の項目に比べ少ないことに注意。



観光地への支援経験 「支援したいが具体的方法が不明」が約7割

- 観光地に対して支援を行いたいと回答した人に、2020年1月以降の支援の実施経験を尋ねたところ、「支援したいと思うが具体的な方法がわからない」が73.0%と最も多くなりました。このことから、支援意向がある人々に対して観光地支援に関する具体的な情報が提供されていないことが示唆されました。
- 「これから支援を行う予定で具体的な方法を知っている」は19.5%、「既に支援を行った・行っている」は6.6%でした。

Q. 新型コロナウイルスの流行によって被害を受けた観光地に対して、2020年1月以降支援を実施したことがありますか。(支援したいと回答した人のみ)【単一回答】

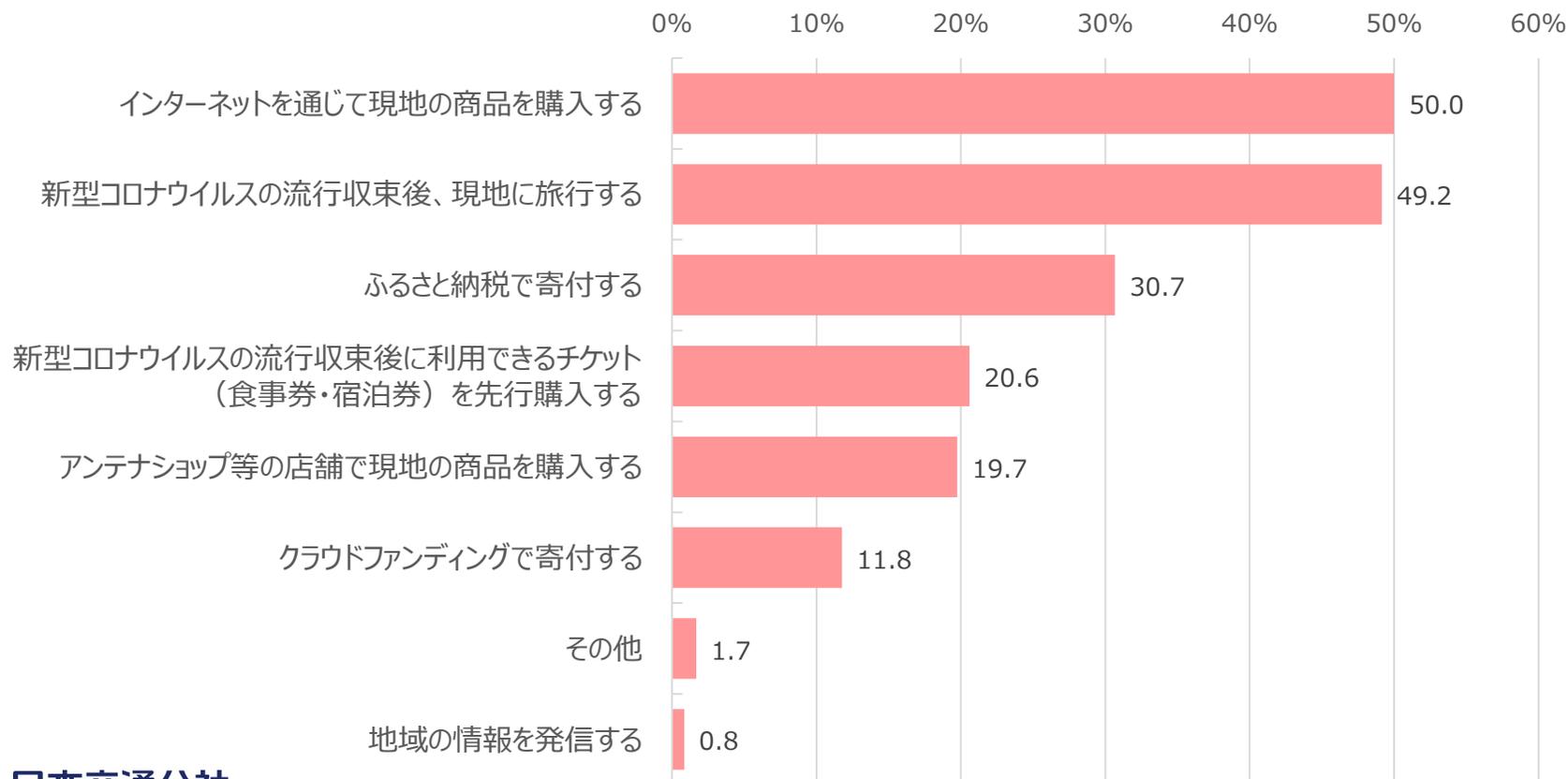


観光地への支援内容 「インターネットによる商品購入」が第一位

- 観光地への具体的な支援の方法を知っている人及び既に支援を行った・行っている人に対してその内容を尋ねると、「インターネットを通じて現地の商品を購入する」が50.0%、「収束後、現地に旅行する」が49.2%、「ふるさと納税で寄付する」が30.7%となりました。

Q. 具体的にどのような支援を実施しましたか（する予定ですか）。

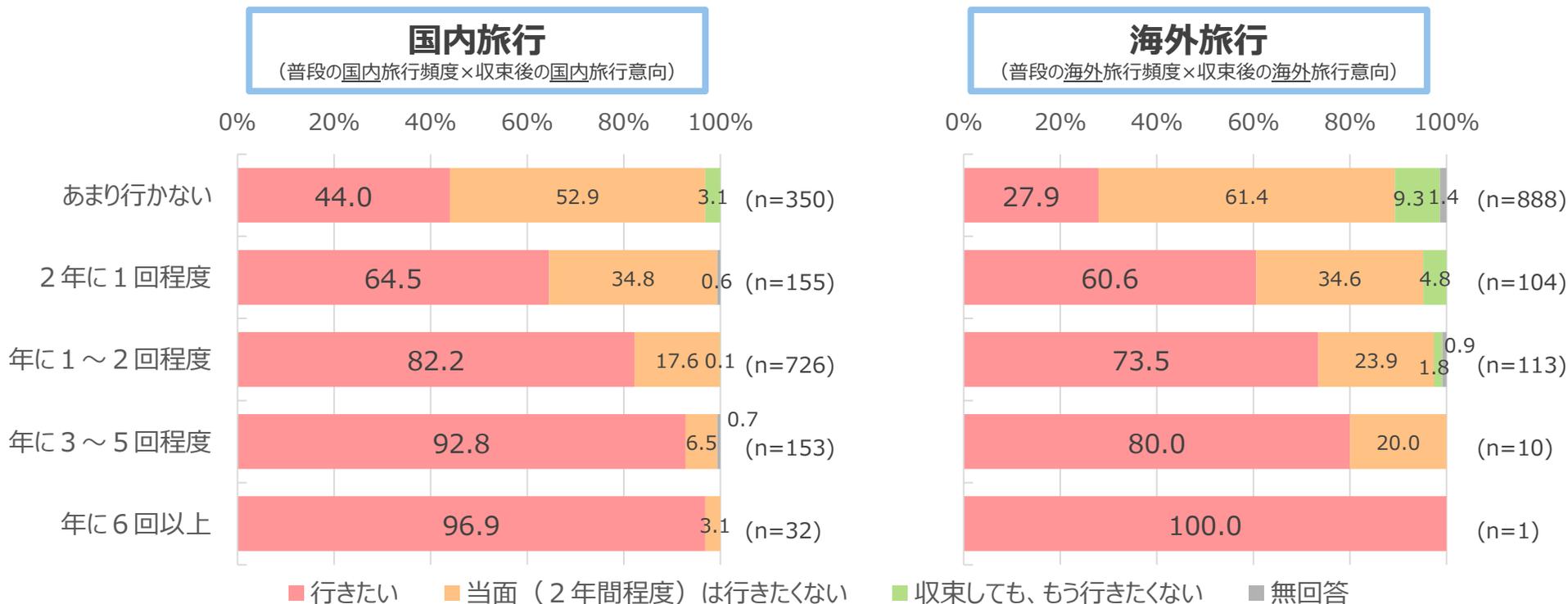
（観光地への具体的な支援の方法を知っている人及び既に支援を行った・行っている人のみ）【複数回答】



新型コロナ収束後の旅行意向 普段の旅行頻度に比例して高まる

- 新型コロナ収束後の旅行意向を普段の旅行頻度別にみると、国内旅行・海外旅行ともに普段の旅行頻度が高い層ほど「行きたい」の割合が高まりました。
- 例えば、国内旅行の旅行意向は、“あまり行かない”層で44.0%、“2年に1回程度”の層で64.5%、“年に1～2回程度”の層で82.2%となりました。

普段の旅行頻度別にみる新型コロナウイルス収束後の旅行意向



※ 項目「新型コロナウイルスの流行に関係なく、旅行には行きたくない」を除いたうえで割合を算出した。

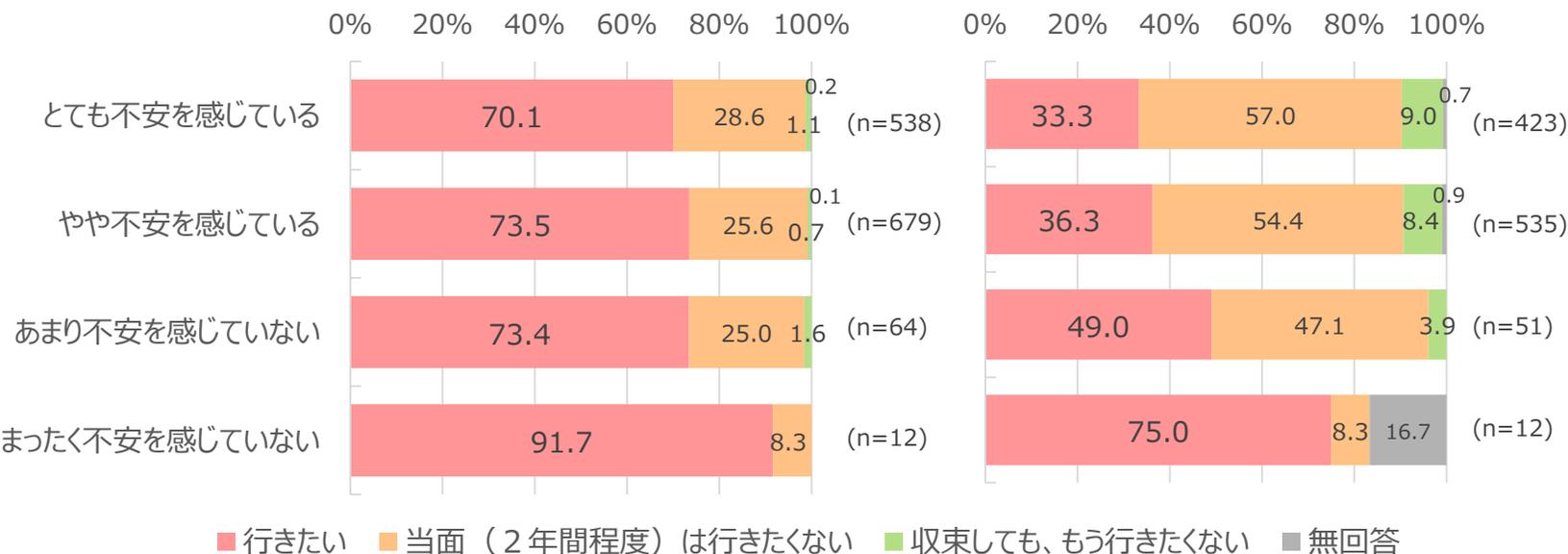
新型コロナ収束後の国内旅行意向 不安度に大きな差は見られず

- 新型コロナ収束後の旅行意向を不安度別にみると、国内旅行では”とても不安を感じている”、“やや不安を感じている”、“あまり不安を感じていない”層（これら3層で97%を占める）で、「行きたい」の割合に大きな差はありませんでした。
- 海外旅行では、“不安を感じている”層の方が渡航を控える傾向にありました。

新型コロナウイルスに対する不安度別にみる収束後の旅行意向*

国内旅行

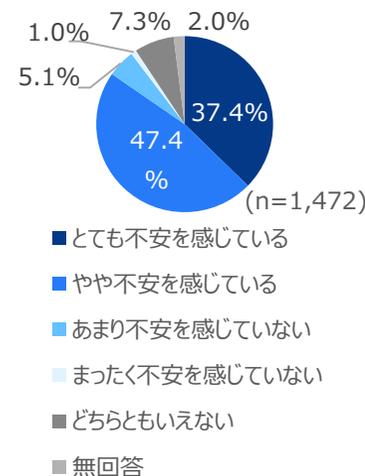
海外旅行



※ 項目「新型コロナウイルスの流行に関係なく、旅行には行きたくない」を除いたうえで割合を算出した。

*新型コロナに対する不安度構成比

設問「新型コロナウイルスの流行について、不安を感じていますか。」の回答のうち、「まったく不安を感じていない」の割合は1.0%であり、他の項目に比べ少ないことに注意。

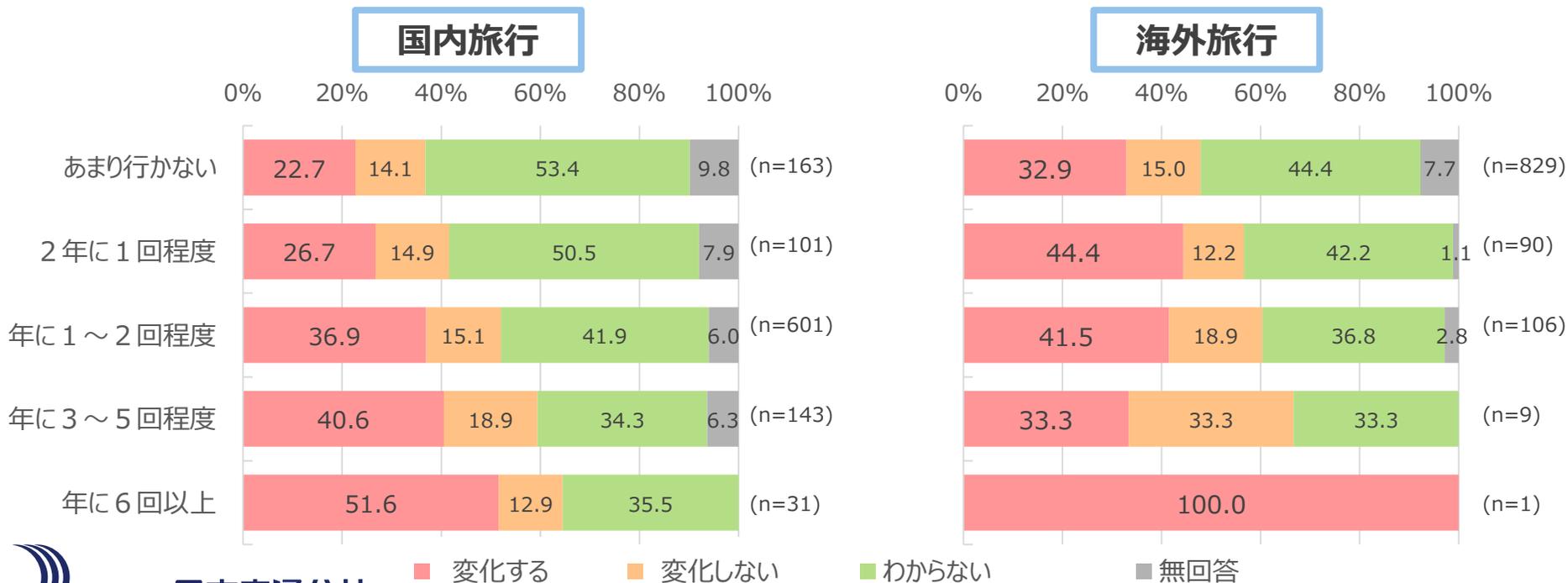


国内旅行では、普段の旅行頻度が高い人ほど 収束後の旅行先の選択や旅行行動を変える予定

- 新型コロナウイルス収束後の旅行先の選択や旅行行動の変化を普段の旅行頻度別にみると、国内旅行では普段の旅行頻度が高いほど「変化する」の割合が高まりました。頻度高く旅行に行く人の方が、旅行における具体的な選択や行動をイメージしたうえで変化するだろう場面を想定していると考えられます。
- 一方、国内旅行、海外旅行いずれも“あまり行かない”層では「わからない」の割合が高いことから、旅行に行き慣れていない人々は、旅行先の選択や旅行行動の変化を想像しにくいと考えられます。

※なお、変化の具体的な内容には、三密回避、マスク着用や手洗い・うがいの励行などの基本的な感染症予防策が多く挙げられました。

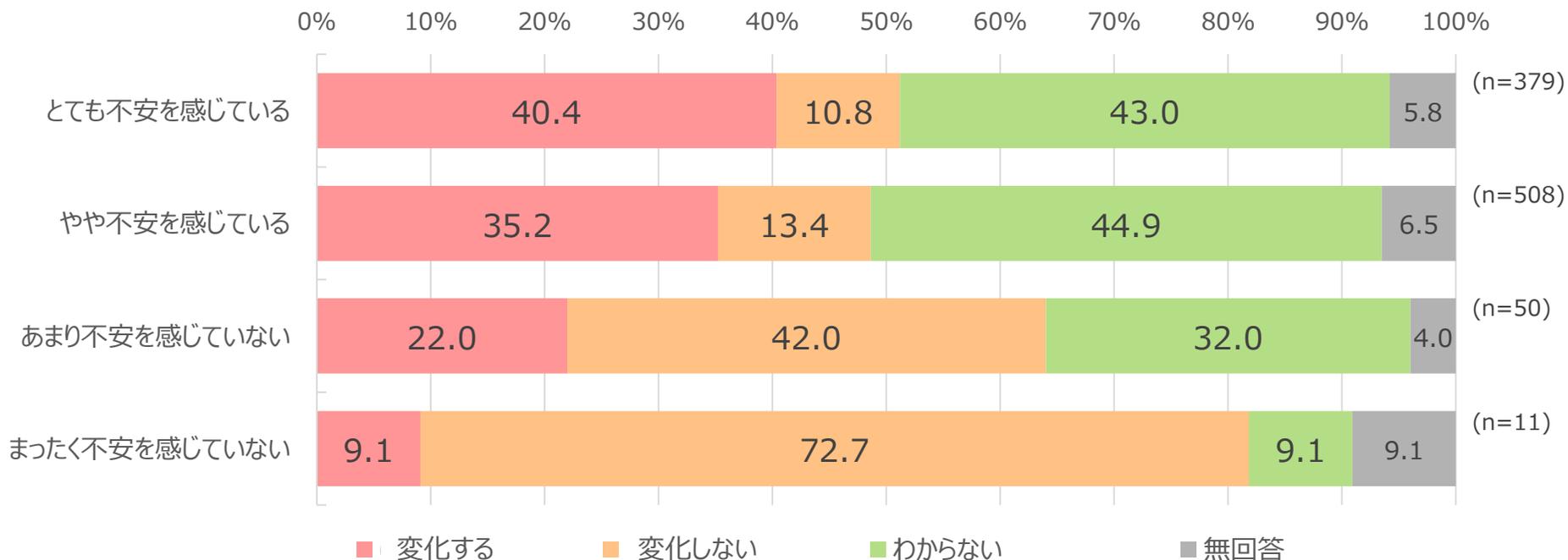
普段の旅行頻度別にみる新型コロナウイルス収束後の旅行先の選択・旅行行動の変化 (新型コロナ収束後に旅行に行きたいと回答した人のみ)



新型コロナ収束後の旅行 不安度が高いほど 旅行先の選択や旅行行動を変える予定

- 新型コロナ収束後の旅行先の選択や旅行行動の変化を不安度別にみると、“とても不安を感じている”層は「変化する」が40.4%、“やや不安を感じている”層は35.2%、“あまり不安を感じていない”層は22.0%となりました。
- このことから、新型コロナに対する不安が強い人ほど旅行先の選択や旅行先での行動を慎重に考えて決定する可能性が示されました。

新型コロナウイルスに対する不安度別にみる収束後の旅行先の選択や旅行行動の変化
(新型コロナ収束後に旅行に行きたいと回答した人のみ)



新型コロナウイルス感染症流行下の日本人旅行者の動向（その5）

～ JTBF旅行意識調査結果より ～

2020年8月14日発行

公益財団法人日本交通公社

観光地域研究部 市場調査チーム

五木田 玲子 / 仲 七重 / 安原 有紗 / 中島 泰 / 寺崎 竜雄

- 本資料は著作物であり著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い引用する際は必ず出所を明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する場合は著作権者の許諾が必要です。下記お問合せ先までご連絡ください。

公益財団法人日本交通公社 観光文化情報センター

電話番号：03-5770-8360

Website：<https://www.jtb.or.jp/>